ず　え

図会で旅する

旅先で おいしいものが 食べたいの

令和3年9月21日(火)～令和4年2月15日(火)の期間、越原記念館で「図会で旅する：くらしの息づかい」という特別展が開催されました。貴重できれいな江戸時代の図会がたくさん紹介されていて、眺めるだけでも素敵な展覧会でした。

図書館では、図会の「くらしの息づかい」の中でも、「旅グルメ」にスポットを当てて紹介します。

「名所図会」と旅の楽しみ：江戸時代の『聖地巡礼』

みなさんの旅先での楽しみはなんでしょうか？ その地ならではのグルメ？ 美しい景色？ 見たことのないお祭り？ 歴史や映画やアニメの舞台で思いに浸る？ どれも捨てがたいですよね。こんな旅の楽しみ方を江戸時代の人たちもしていたんですよ。それがよくわかるのが「名所図会」です。

「名所図会」は江戸時代後半に刊行された各地方の挿絵入りの名所案内です。各地の名勝や神社仏閣、お祭りや年中行事、各地の名物・名産を、美しく詳細で正確な絵と和歌、俳句などと共に紹介したもので、読者の旅情を誘い、大変に人気がありました。

「名所」というのはよく知られた場所という意味ですが、特に古い歌に詠まれたり、歴史的な事件があったりしたところとして知られている場所のことを言います。そんな場所を見に行きたいという思いは、映画やアニメの舞台を見に行く『聖地巡礼』と同じですよね。

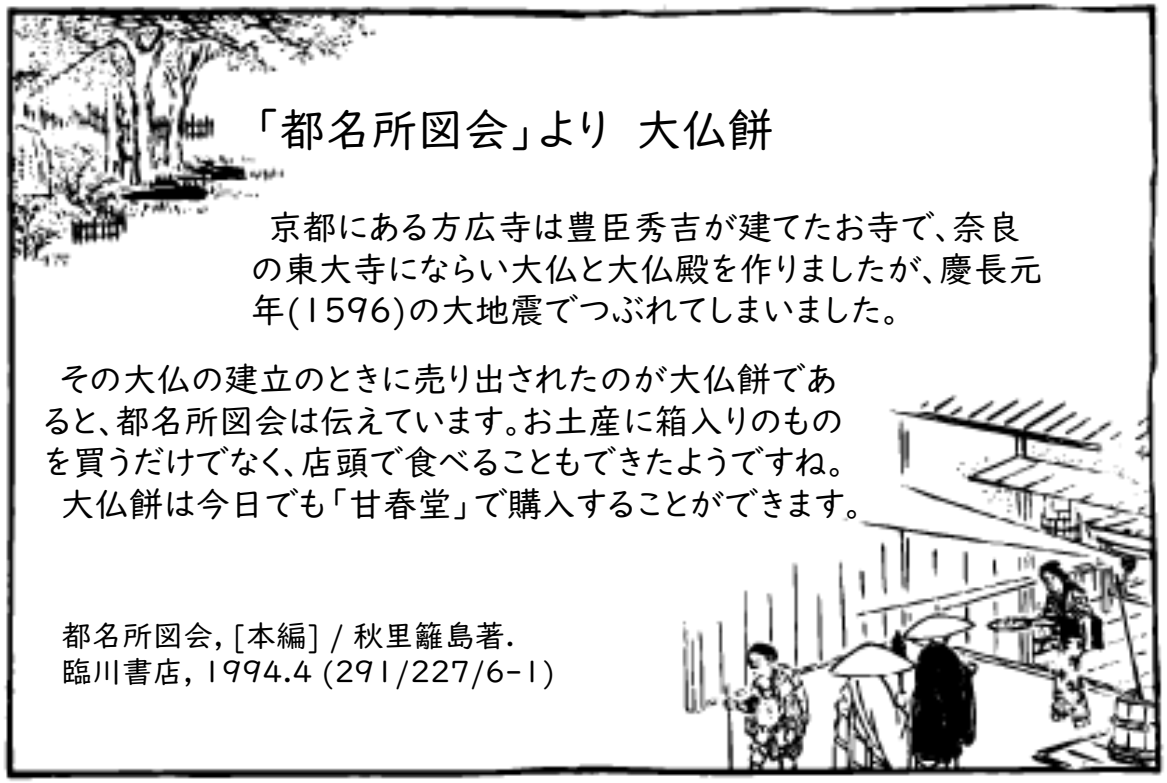
「名所図会」について：売れすぎて、読者が製本!?

最初に刊行された名所図会は「都名所図会」で、京都の案内記でした。著者は秋里籬島(あきざと りとう)。この本は、最初は思うように売れなかったのですが、大坂城代であった酒井侯が、所用で江戸に行く際に土産にこの「都名所図会」を持って行ったところ、大評判となり、そこから大ブームを巻き起こしたのだそうです。あまりの売れ行きに版元では製本が間に合わず、客に表紙と糸を添えて渡して「自分で綴じてくれ」といったのだとか。

その後、秋里籬島は都名所図会の続編ともいうべき「都拾遺名所図会」「大和名所図会」「東海道名所図会」など十数種類の名所図会を執筆しました。名所図会は他の作者によるものも多く作られ、関東から九州まで、60種類以上が刊行されました。

江戸時代の旅：寺社参りの「ホンネ」と「タテマエ」

ところで、いくら旅情を誘われても、江戸時代にそんなに簡単に旅行ができたのでしょうか。学校で習ってきた江戸時代のイメージではとても庶民が気軽に旅をできたようには思えませんよね。ところが、「伊勢参り」「金毘羅参り」「善光寺参り」「富士登拝」などの寺社参りの旅はかなり一般的でした。そんな「伊勢参り」などに出かけた人の多くは、その前後には足をのばして、いわゆる観光旅行もしていました。「伊勢参宮 大神宮へもちょっと寄り」という川柳が残っているそうです。つまり、タテマエの目的の大神宮へは「ちょっと」だけ寄って、ホンネでは観光をメインに楽しんでいたということですね。



「都名所図会」より　大仏餅

京都にある方広寺は豊臣秀吉が建てたお寺で、奈良の東大寺にならい大仏と大仏殿を作りましたが、慶長元年(1596)の大地震でつぶれてしまいました。

その大仏の建立のときに売り出されたのが大仏餅であると、都名所図会は伝えています。お土産に箱入りのものを買うだけでなく、店頭で食べることもできたようですね。
大仏餅は今日でも「甘春堂」で購入することができます。

都名所図会, [本編] / 秋里籬島著.
臨川書店, 1994.4 (291/227/6-1)

「拾遺都名所図会」より 祇園二軒茶屋

京都、八坂神社の参道に二軒の茶屋があり、「二軒茶屋」と呼ばれていました。ここの名物は豆腐の田楽。店先で豆腐を料理している女性を見ているのはオランダ人です。

当時、オランダ人が京都を通るときにはたいていこの茶店で休んでいったのだそうです。

京都は今日でも湯豆腐などの豆腐料理が有名ですが、江戸時代にも豆腐は京都で作られるものが一番良いと知られていました。

「二軒茶屋」の一軒だった中村楼で、今もこの豆腐田楽が食べられるそうです。

拾遺都名所図会 / [秋里籬島著]. 臨川書店, 1994.5 (291/227/7)

「京都の精進料理」の一項目「京の豆腐料理」に「中村楼の田楽」のことが「音曲に合わせてことことと豆腐を切る古風な妙技は、老年のお福さんが引退したあと誰もこの妙技のやり手がないらしい」と紹介されています。オランダ人を驚かせた妙技は昭和で途絶えてしまったのでしょうか。

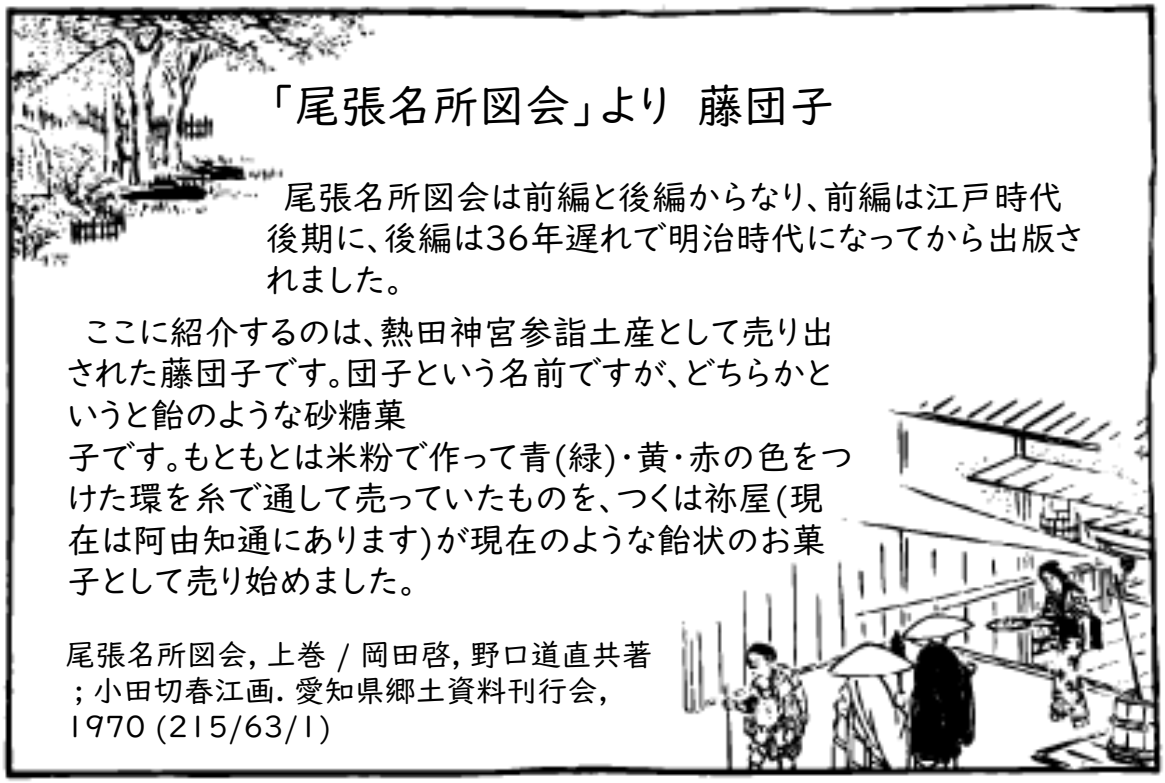
味の風土記 / 柳原敏雄著. 婦人画報社, 1959.12 (596.3/18)

「東海道名所図会」より 焼蛤

現在では桑名の名物として有名な焼き蛤ですが、実際は四日市と桑名の間の富田あたりの名産だったようです。この辺りでは、茶店の軒先に火鉢を出して、松ぼっくりを燃料に蛤をあぶり、伊勢参りの旅人を相手に売っていました。

松ぼっくりで焼く方法は、江戸時代に書かれた「本朝食鑑」にも「焼き蛤は、松ぼっくりであぶったものがよく、藁火・炭火であぶったものがそれに次ぐ」と紹介されている調理法です。

東海道名所図会, 上巻 / [秋里籬島著] ; [竹原春泉斎画]. 羽衣出版, 1999.8
(291/291/1)

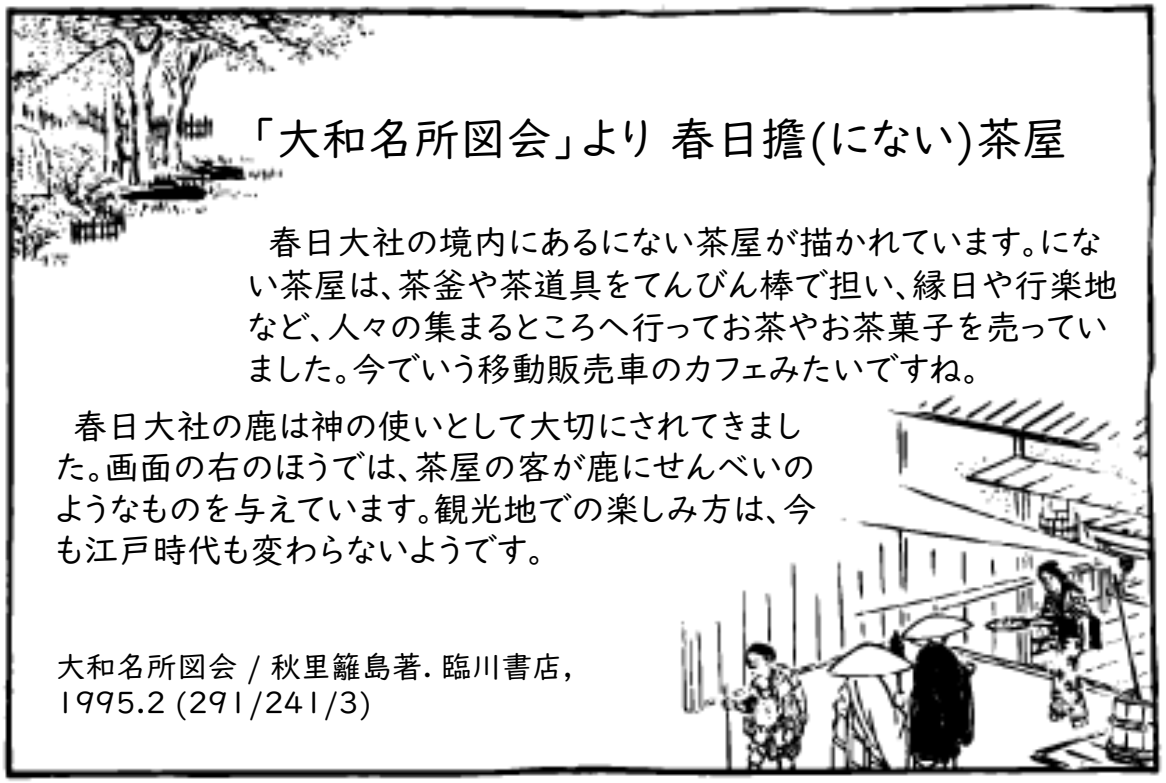


今回紹介した名所図会の江戸の旅グルメのうち「藤団子」と「大仏餅」が紹介されています。

美しい和菓子の図鑑 / 青木直己監修. 二見書房, 2021.5 (588/1013)

半世紀以上前の本ですが、味のあるカラー写真が素敵です。「藤団子」が紹介されています。

日本の名菓 / 鈴木宗康著. 保育社, 1967.4 (596.6/5)



「大和名所図会」より 春日擔(にない)茶屋

春日大社の境内にあるにない茶屋が描かれています。にない茶屋は、茶釜や茶道具をてんびん棒で担い、縁日や行楽地など、人々の集まるところへ行ってお茶やお茶菓子を売っていました。今でいう移動販売車のカフェみたいですね。

春日大社の鹿は神の使いとして大切にされてきました。画面の右のほうでは、茶屋の客が鹿にせんべいのようなものを与えています。観光地での楽しみ方は、今も江戸時代も変わらないようです。

大和名所図会 / 秋里籬島著. 臨川書店,
1995.2 (291/241/3)

<参考文献一覧>

・江戸の旅文化 / 神崎宣武著. 岩波書店(岩波新書), 2004.3 (080/182/884)
・江戸の旅 / 今野信雄著. 岩波書店(岩波新書), 1986.8 (080/118/349)
・國史大辭典 / 国史大辞典編集委員会編. 吉川弘文館, 1979.3-1997.4 (210/270/1～15-3)
・都名所図会を読む / 宗政五十緒編.東京堂出版, 1997.3 (291/252)
・尾張名所図会絵解き散歩 / 前田栄作文 ; 水野鉱造写真. 風媒社, 2013.10 (291/344)
・本朝食鑑 / 人見必大著 ; 島田勇雄訳注. 平凡社(東洋文庫), 1976.11-1981.3 (383/601/1～5)
・江戸物売図聚 / 三谷一馬著.立風書房, 1979.9 (384/16)
・江戸の旅風俗 : 道中記を中心に / 今井金吾著.大空社, 1997.4 (384/111)
・豆腐 (日本の味名著選集 ; 7) / 安井笛二編著. 東京書房社, 1978.12 (596.11/150/7)
・江戸時代の交通と旅 / 雄山閣出版, 1982.6 (682/4)
・角川茶道具事典, 本編 / 林屋辰三郎 [ほか] 編.角川書店, 1990.5 (791/85/1)

・Japan Knowledge
(学術情報センターHP>図書館資料を探す>データベース>Japan Knowledge)

名所図会 on WEB

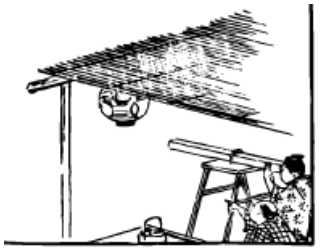
JapanKnowledgeでは「江戸名所図会」が解説付きで読めます。

学術情報センターHPトップの「図書館資料を探す」にマウスオーバー（スマホならタップ）。
メニューの中から「JapanKnowledge」を選択。

JapanKnowledgeの「本棚」をクリックすると、**「江戸名所図会」**を読むことができます。

学情HP

学外からのアクセスなら、
まず「マイライブラリ」に
ログインしよう！

江戸名所図会　四（第2巻4冊）
67丁に、今も名物の「浅草海苔」が載っています。
是非「挿絵解説」もクリックして、細かく見てくださいね。楽しいですよ！

国立国会図書館デジタルコレクションでも、
「和泉名所図会」「伊勢参宮名所図会」
「河内名所図会」など、いろいろな
名所図会を見ることができます。